

<b>1 学校教育目標</b> 「心晴れ晴れ たくましく 学び伸びゆく 晴田っ子」の育成 ～地域に根ざし、世界につながれ、晴田っ子！～	<b>2 本年度の重点目標</b> ①人権が尊重される学習活動を創造する。 ②人権が尊重される集団づくりを図る。 ③自己肯定感を高める取り組みを充実させる。
---	---

達成度 A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である  
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
① 人権が尊重される学習活動を創造する。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	外国語科・外国語活動の指導力向上	・外国語活動で「聞くこと」、「話すこと」の言語活動に主体的に取り組んでいる児童を80%以上とする。	・新学習指導要領を先行実施する。 「1・2年生の外国語活動」10時間 「3・4年生の外国語活動」35時間 「5・6年生の外国語活動」70時間 ・English Week、外国の情報や英語での校内環境整備を図る。	A	・保護者の97%、教職員の84%が英語教育に肯定的な回答だった。 ・校内の掲示等が、来校された保護者や地域の方の英語教育への意識を高めることにつながった。 ・児童アンケートで、主体的に言語活動に取り組んでいるとする割合が81.6%で目標を達成できた。	・育友会と連携して、子ども達がネイティブな英語に親しむ機会を確保する。 ・11月の小城市の教育研究大会をめぐり、今年度の研究成果と課題をもとに研究を進め、本校の英語教育を確立する。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革	校務の効率化 職員の意識改革	・年間で時間外勤務を5%削減する。	・毎週火曜日を定時退勤日(18時)とし、緊急時以外は課後に会議を行わない。 ・ICT支援員を活用し、校務用サーバの整理と校務の一層の電子化を進める。 ・休業中に全職員で業務改善策を検討し、可能かことから取り組む。	B	・11月の英語教育発表会に向け、全職員の意欲的な取り組みが時間外勤務につながり、思うように削減が進まなかった。 ・運動会のプログラム削減、人権集会の在り方の見直しは、業務改善につながった。	・校務サーバの整理と校務の電子化について、プロジェクトチームを組織し、取り組みを進める。 ・全職員が各分掌の立場から、個々の行事の簡素化を図り、31年度の年間行事計画に反映させる。
教育活動	●学力の向上	基礎学力の定着と活用力の向上のための指導方法の改善	・12月の学習状況調査で、4月調査の達成率を上回る。	・ぐんぐんタイムに級外職員も入り、国語と算数の基礎学力向上を図る。 ・学習状況調査結果を分析し、本校児童の課題に応じた指導法の改善を図る。 ・育友会と連携し、家庭教育週間の取り組みをもとに家庭学習の充実を図る。	B	・子ども達の学力の伸びは見られるが、県平均正答率には達していない。 ・計画的に級外職員もぐんぐんタイムに入り、基礎学力の向上に努めた。 ・学習状況調査結果を基に、学校で取り組むことと家庭で取り組んでもらうことを具体的にまとめた資料を配布し、家庭との連携に努めた。	・学習状況調査を子ども一人ひとりの誤答から分析し、各学年の単元の指導に生かす。 ・家庭との連携を深め、自学ノートの取り組みを継続し、子どもの自主的な学習への取り組みを促進する。
② 人権が尊重される集団づくりを図る。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○自主的・実践的な態度の育成	学級活動と児童会活動の充実 異学年交流活動の推進	・学校での生活がより豊かな集団生活となるように、集団活動の充実を図る。	・集会活動や縦割り班活動などでの感想交流や振り返りカードで、自分や友だちの良さを見つけさせ、活動意欲を高める。 ・縦割り班で、上級生がリーダーシップを発揮できる清掃活動や共遊活動を実施する。	A	・保護者アンケートでは98%、職員アンケートでは100%が肯定的な回答だった。 ・オレンジタイム(縦割り班活動)では、上級生がリーダーシップを発揮した異学年交流が定着している。	・週時程の見直しに合わせて、オレンジタイムの年間計画を見直す。 ・各分掌担当を中心に、学校行事における児童会活動の在り方を検討し、子ども達の自主的・自律的な活動を支援する。
学校運営	○地域、保護者との連携による体験活動の充実	晴田地区青少年健全育成会議、育友会との連携強化	・土曜教室参加児童を増やし、異学年や地域の方との交流を図る。 ・保護者や青少年の方々と連携した学習活動を実施する。	・学校便りや育友会カレンダー等に青少年や育友会活動を位置づけ、子どもの参加意欲を高める。 ・教職員も育友会活動、青少年活動に年2回は参加し、保護者や地域の方々と相互理解を図る。	A	・青少年の土曜教室への参加児童数は年々増加している。 ・地域や育友会と連携した活動に保護者の99%が、肯定的な回答だった。 ・地域や育友会行事は休日が多く、教職員の参加には偏りがあった。	・社会に開かれた教育課程を目指して、地域の教育資源(人材、歴史、自然など)を教育課程に積極的に位置づける。
③ 自己肯定感を高める取り組みを充実させる。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	人権教育、道徳教育の充実	・人権教室や人権集会後のアンケートで、人権意識が高まったとする児童の割合を80%以上とする。 ・深く考え議論する道徳の授業が効果的に実践できる全体計画、年間指導計画を作成する。	・年3回の人権学習への保護者や地域の方への参加を呼びかけ、学校での取り組みを知っていただくと共に、家庭や地域と連携した取り組みを進める。 ・深く考え議論する道徳の授業で、書く活動や話し合う活動で深く考えさせたり、多様な考えに気づかせたりする。	A	・人権学習への取り組みは、保護者では96%、教職員では94%が肯定的な回答だった。 ・全学級で、計画的に道徳の授業が実施できた。また、書く活動を通して、話し合い活動も活発化し、価値観を広げ高めることにもつながった。	・夏季休業中に講師を招いた校内研究を実施し、人権教育と深く考え議論する道徳の授業展開について職員の理解と実践的指導力高める。
教育活動	●いじめの問題への対応	生徒指導・教育相談の充実	・子ども一人ひとりに寄り添い、いじめの未然防止、早期発見・早期解消に努め、学校のいじめ防止対策への保護者の満足度を90%以上とする。	・毎月のアンケート、年2回の教育相談週間で一人ひとりの子どもをしっかりと把握し、問題には即時対応する。 ・ケース会議の内容を全職員で共有し、学校全体で継続した取り組みを行う。	B	・いじめへの学校の取り組みについて、保護者の92%は肯定的な回答だった。 ・いじめ事案には全職員で情報を共有し、組織的対応をとることで、事案も大きく減少した。 ・いじめの認知・認知事案が4件あった。いじめの未然防止の取り組みを強化する必要がある。	・文科省や県教委の資料をもとに、いじめに対する職員の意識向上と組織的対応について研修を進める。
学校運営	○特別支援教育の充実	特別支援教育体制の確立	・昨年度作成した晴田スタンダードをもとに全職員が連携して取り組む。 ・特別な支援が必要な子どもを早期発見し、組織的な支援を行う。	・晴田小スタンダードを共通理解して、全職員で取り組む。 ・特別支援教育の研修会を通して、職員の理解を深め、外部専門機関の助言をもとに全職員で共通理解を図って支援する。	A	・職員の特別支援教育への意識の高まりと、特別支援学校の巡回相談、医療機関との連携等により、困り感をもつ子どもへの組織的な支援が充実してきている。	・長期休業中の職員研修の充実と、計画的な個別の指導計画、支援計画の見直しにより、職員の資質向上と子どもへの支援の充実を図る。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・朝食喫食率を95%以上にする。	・年2回の晴田っ子アンケートで把握した朝食喫食率をもとに、学級指導や家庭科等で食の大切さを考えさせる。 ・1年生保護者を対象とした給食試食会、保健便りや学校便り等で食の大切さへの保護者の理解を深める。	A	・給食喫食率は6月調査は98%、12月調査は98%で、目標を達成することができた。 ・1年生保護者の給食試食会への参加者が20%程度であった。	・給食試食会の対象学年を広げ、保護者の参加を増やし、食育への意識を高める。
4 本年度のまとめ・次年度の取組							
<p>○県の英語教育研究指定を活用し、全職員が一丸となって研究に取り組んだことから、英語教育の実践力が高まり、子ども達の英語での「聞く・話す」能力が高まった。次年度も研究を継続し、小城市教育研究大会で公開する。</p> <p>○子ども達の学力は全体として経年比で向上しているが、個別指導をさらに充実させる必要がある。学力向上評価シートをもとに、全職員で連携し子ども達の実態に応じた取組を進めていく。</p> <p>○人権・同和教育は計画的かつ実態に応じて改善しながら推進できた。次年度も「聴くは思いやり 言葉は贈りもの」を合い言葉に全教育活動の中で推進し、子ども達の豊かな心を育む。</p> <p>○子ども達の挨拶の状況や学校内の環境美化を多くの方にほめていただいた。教室の日当たりや空調等は行政と連携し学習環境改善を行う。</p> <p>○心身共に充実して子どもの教育にあたるように、学校行事や総合的な学習の時間の活動の見直し、職員の協働と個々の意識の向上から超過勤務を削減に努める。</p> <p>○青少年や育友会と連携を深め、社会に開かれた教育課程の実現に努めるとともに、地域のよさを実感し地域を誇りに思う児童を育成する。</p>							

●は共通評価項目、○は独自評価項目